3　園評価書（指標）　　令和5年度　　園評価書

園番号　20　　園名　静岡市立東新田こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
自分が好き、 友だちが好き、 心豊かで たくましい子	たのしい・ おもしろいが 広がる つながる	子どもたちは、気づきやひらめき、偶然の発見を楽しみながら、より面白くなるように身近な道具や素材を組み合わせて繰り返し試している	年齢や興味に合った素材・教材を選択し、素材に適した道具を使って遊ぶ姿が見られている。秋以降は散歩先で見つけたどんぐりやまつぼっくり等の自然物を遊びに取り入れ様々な素材と組み合わせて遊ぶことを楽しんだ。年長児は釘やとんかち、ホットボンドなどの新たな道具を使い、板に釘を打ってどんぐり転がしの台を作ったり、枝とどんぐりをホットボンドで貼り合わせて作品を作ったりして楽しむことができた。	A	A	・毎日楽しく遊ぶことができ、喜んで登園している ・自然物を取り入れた遊びがされていていい ・子どもたちが自ら発信する力を育てるためには職員の丁寧な関わりがポイントとなると思うがそこはよくできている。さらに発信する力を育てるためには子どもたち一人一人とより丁寧に関わっていくことを期待する	・子ども達は「たのしい」「おもしろい」を見つけることはできている。子どもの気づきやひらめきに寄り添い、遊びがより楽しめるように環境を整えていく ・発達や興味・関心に合わせた素材・教材について職員間で話し合ったり、研修を重ねたりしながらより良い提供の仕方を工夫していく ・子ども一人一人の思いを大切にしながら、友だちの良さに気付けるように仲立ちしたり、一緒に遊んだりしていく ・発信の仕方は一人一人違うため、子どもの思いを丁寧に汲み取り、発信しようとしている姿を認めたり、時には手助けをしたりして発信しやすい場や雰囲気作りをしていく
		子どもたちは、自分と違った考えに気づいたり聞いたりしながら、自分の思いを言葉や仕草で表現し、友達とのかかわりを楽しんでいる	職員が子ども一人一人の思いを大切にし、丁寧に対応してきたことで、自分の思いを出しながら遊ぶことができている。その中で友だちの良さに気づいたり友だちのアイデアを自分の遊びに取り入れたりして遊ぶ姿がある。	A	A		
		子どもたちは、困った場面に出会った時に、自分なりの方法で周りに発信しようとしている	全体的には困ったことを発信する力は育ってきているがまだ発信できていない子もいる。子どもたちが困った場面に出会った時には、職員が個々の育ちに合わせた関わりを意識し、解決策を一緒に考えたり、自分で考えている姿を支えたりしながら発信する力を育んでいる。	B	B		

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	園は、それぞれの年齢の発達や成長を捉え、職員同士がコミュニケーションを取りながら、園全体で子ども理解を深めている	早番・遅番の時間に他クラスの子どもと関わったり、会議の中で伝え合うことで子ども理解を深めているがシフトに入らなかったり会議に参加しなかったりする職員への周知が会議録の回覧だけでは難しかった。他クラスとの交流も増えているが、さらに交流の機会を増やしたりいろいろな職員が公開保育に参加したりして子ども理解につなげていきたい。	B	A	・今年度は異年齢交流を積極的に取り入れた活動ができている。職員が「もっと」と思っているところは来年度に期待する ・職員みんなが子どもの名前を覚え呼んでくれたり、声をかけてくれたりするので安心して預けることができている ・保護者アンケートの結果と職員の評価は乖離している。職員は伝達の仕方を工夫し、「できている」と評価したが、保護者は不十分と感じている。次年度は伝わるように工夫、改善されることに期待する ・教材研究は次年度の課題とし、今年度は指標通り素材・教材の用意ができている	・他学年と散歩に出かけたり、行事に参加したりするなど定期的に異年齢児との交流の機会を増やしていく ・参加していない職員にも伝わるよう、会議録は回覧だけでなく口頃でも伝達していく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園は、保護者からの連絡を、職員間で丁寧に伝達し合い、必要なことを的確に周知している	遅番で受けた伝達を翌日の早番に伝えるために伝達内容をボードに赤ペンで記入するように会議の中で共有したことで伝達もれが少なくなった。伝達もれをゼロにするためにはさらなる工夫が必要だと感じる。	A	B		・伝達ボードの使い方を全クラス統一にし、誰が見てもわかりやすくしておき、早番の際には前日の様子も確認する ・保護者からの朝の伝達に対する返答を帰りに必ず行う ・保護者からの質問に対して返答がわからなかった時には担任等に確認する旨を伝える
	(3)環境を通して行う教育及び保育	園は、気づきやひらめきが広がり、つながるように、遊びを深めることができる時間や場、教材や素材を用意している	各クラスは年齢や興味に合わせた環境が整えられているが、共有部分については遊び方や環境の準備についての話し合いが必要だったと感じる。教材研究は研修に参加した職員からの報告の中で行うことができた。実践につながる教材研究の時間をもっととれるといいと思う。	B	A		・環境の分掌と研修部が協力し、共有部分の遊び方や年齢に合った素材・教材の提供の仕方について話し合い、定期的に環境を見直していく ・教材研究の時間を設けたり、時期や時間を決めて環境整備を行うなど園全体で取り組んでいく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園は、あと一歩で事故になるところだったという、ヒヤリハットした出来事を記録、分析、改善策を職員間で周知し、事故防止対策を行っている	今年度はヒヤリハットの提出を呼びかけたことで提出率が上がった。提出されたヒヤリハットは、朝の打ち合わせで確認後、すぐ各クラスに伝達し、毎月職員会議で傾向と対策を共有し、事例検討を行うなど事故防止に努めている。職員が事故防止を意識したことで大きなけがもなく受診をしたけがも昨年度より少なかった。また園周辺の危険マップを作り掲示したり、おたよりの発行を行ったりして保護者にも発信した。更に安全意識を高めるためにタイムリーにヒヤリハットを記入するための工夫をしたり、園での怪我の傾向や取り組みを保護者にも発信したりしていきたい。	B	B	・昨年度C評価だったところだが、今年度は努力したことが伝わった。保護者への発信や共有は難しいと思うが、取り組んだことは評価をしたい	・ヒヤリハットの提出率を下げないよう担当が声掛けをしたり、用紙を配布、回収したりして全職員で意識する ・園ではどんなヒヤリハットが出ているかや園の対策についてお便りを発行したり、掲示したりして保護者にも発信していく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	園は、毎日の健康管理（健康カード）を行い、うがい、手洗い、消毒、十分な換気に対応している	健康カードを活用し子どもの健康状態を把握し個々に合わせた対応ができた。また食育の日などの活動を通し、水分補給や好き嫌いしないで食べることなど感染予防への意識の高まりも見られている。手洗いを促すポスターや手洗いの仕方の手順表を掲示したり、入室前のうがいを促す声かけを意識したりしたことで実践しようとする姿がみられるが定着は難しく大人の丁寧な見届けを必要としている。感染症の状況を家庭にも発信し、連携を取りながら感染症対策をしていきたい。	B	B	・感染症流行時には保護者へも伝えていることは良い。家庭でも十分に見届けてもらえるよう発信をしていくことも大切である	・感染症流行時には玄関ボード、おたより、メールなどで速やかに保護者に伝えるとともに、感染症対策について家庭と連携を図り、手洗いやうがいの定着につなげていく。また園内の消毒もより丁寧に行い感染拡大防止に努める
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	園は、一人一人に合わせたサポートプランを作成し、アンパンマンの会での活動や担当者会議等で話し合った内容を園全体で共有し丁寧な関わりをしている	担当者がサポートプランを作成し、個々に合わせた支援を行い、アンパンマンの会やオレンジサロンを計画的に実施することができた。毎月担当者会議を行い、その内容を職員会議で報告しているが、個々の事例について全職員で深めることができなかった。そのため会議の内容は把握できても実際に支援児に関わった時に対応の難しさを感じるケースもあった。会議の持ち方を工夫する必要があった。	B	B	・職員の中に少し課題があるとのことであれば来年度に期待する	・職員会議の中で支援児の特性や注意点などについての伝達を行う。ケース検討をする場を設け、誰もが支援児について知りより丁寧に関わることができるようにしていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	園は、園務分掌担当者を中心に見通しをもって企画をし、それぞれの分掌が協力し合って行っている	企画書を作成する際に、乳児・幼児会議で話し合いをすることで職員の意志を反映することができた。運動会や発表会等の行事では準備の内容を事務室に掲示したことで計画的に行われ、協力体制ができていた。 行事により他の行事と準備の時期が重なってしまい負担に感じた時期もあったので、担当職員の割り振りを検討する必要があった。	A	A	・職員が協力し合って園運営ができている	・分掌同士がつながりを持ち協力をしながら行事の企画、運営を行うようにする。また行事によっては学年の意向が反映されるような企画を立て実践していく
6 研　修	(1)研修体制の充実	園は、研修テーマ「一人一人の気づきに寄り添い、探究心を高める保育教諭の援助」に向けて、保育実践と研究を重ねている	日案研を取り入れたことで多くの職員が研修に参加し、研修テーマに沿った園内研修を積み重ねていくことができた。子ども一人一人の気づきや思いに寄り添い、探究の姿を理解しようと子どもの姿を捉えられるようになってきた。さらに学びが深まるように研修の進め方を工夫したり日々の記録や話し合いを活かしたりしていく方法を考えていく必要がある。	A	A	・より多くの職員が研修に参加することでみんなが同じ方向を向いて教育・保育ができるので日案研はいい取り組みだった	・引き続き日案研を行い、多くの職員が研修に参加できるようにしたり、参観の時間の調整を行う ・「研修」と構えることなく気軽に保育を見合い、全職員が子どもの「気づき」に寄り添う保育ができるように事前の計画を立てる
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	園は、備品、遊具、教材等の配置、保管を適切に行い、日頃から教育・保育環境の整備に努めている	絵本コーナーや廃材コーナーは定期的に整え活用しやすくしているが、早番・遅番で使用する保育室やホールなどの共有スペースについては玩具の使い方や遊び方、片付け方などについての話し合いが不十分だった。定期的に職員間で確認し、遊具や教材を入れ替えたり、季節ならではの遊びができたりする環境を整えていけるとよかった。	B	A	・共有スペースを整えていくことは来年度の課題とし、今年度は十分に達成できていた ・園内の掲示で季節を感じることができた ・園外に出かけると季節を感じることができる場所がたくさんある。園庭にこだわらず、園外に出かけていけばよい	・環境整備の分掌を中心に定期的に園庭や砂場の玩具を見直し、整備していく ・早番・遅番で使用するホールは担当を決めて、責任を持って整えていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園は、日々の活動や遊びを通した気づきやひらめきの広がり、つながり、探究の過程をボード等で可視化して伝えている	玄関ボードの作成の際は子どもの学びや探究について写真を付けてわかりやすく発信するよう意識して取り組んだ。園だよりやクラスだよりでの発信もしているが、保護者にどこまで伝わっているのかと疑問に感じる。わかりやすい発信の工夫が必要だと感じる。 絵画展の際に公開保育のまとめの模造紙を掲示すると丁寧に目を通していく保護者もいて、職員の研修内容や子どもたちの学びの姿を伝えるよい機会となった。	A	A	・保護者に伝わっているかや保護者がどう受け止めているかは個人によっても違う。園は丁寧に発信している	・引き続き写真を用いて保護者にとってわかりやすい掲示を意識し、子どもたちの学びや探究する姿を発信していく ・公開保育を行った際には研修した内容を玄関に掲示し、保護者と共有していく ・参加会や行事の際には実際に子どもの様子を見てもらいながら保護者に子どもたちの育ちや学びについて丁寧に伝えていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	園は、支部拠点園として公開保育や交流活動を計画、実施し、乳幼児期に育ってほしい姿を共有した育ちや課題について共通理解を図り意見交換を行っている	年長組を中心に近隣園や小学校との交流を持つことができている。 支部拠点園として公開保育を行ったことで多様な意見を聞くことができ、学びを深めることができた。さらに交流の機会を増やし、他園の取り組みの様子を知り学びあっていけるとよいと思う。	B	A	・来年度に向けて学校側も新たに部会を設けた。子どもたちの交流にとどまらず、職員同士も交流を持つことができるとよい	・引き続き年長を中心に小学校や支部の園との交流を行っていく ・小学校の授業や行事を参観したり、校内の見学など積極的に働きかけていく ・支部内の交流や学びとなるように園長、副園長は園を決めて公開保育や事後研修に参加をし、意見交換を行う。また、研修主任や職員も公開保育の参観などで交流を行っていく
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園は、勤労感謝訪問、地域の自治会、せきれい会、連携園との交流会、おしゃべりサロンの開催を通して地域との連携を図っている	せきれい会、おしゃべりサロンは概ね予定通り開催することができた。散歩先でも挨拶を交わし親しみをもって交流したり、勤労感謝訪問のカレンダーを作って届けたり、おしゃべりサロンに参加した近隣の方たちに自作の獅子舞を披露したり、表現することの楽しさも味わうことができた。 来年度の入園を見越して連携園のめばえ保育園の2歳児との交流も実施できてよかった。鳩の子保育園との交流も実施していきたい。	A	A	・せきれい会は高齢化が進んでいる。安全に交流できるよう気をつけていきたい	・せきれい会やおしゃべりサロン、自治会活動、勤労感謝訪問などを通して地域の方と交流が図れるよう計画をたて、実践していく ・引き続き連携園と定期的な交流を持ち、安心して進級できるようにしていく